

塩谷政憲教授のご退職にあたって

塩谷政憲教授が平成29年3月にご退職になられます。先生は静岡県沼津市出身。上智大学文学部社会学科を卒業後、東京教育大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程・博士課程に学びました。1976年に国士舘大学教養部に着任、1996年より文学部に移籍され、今日に至るまで研究と教育に従事されました。先生は41年の長きにわたって一般教養科目の社会学を担当し、7学部にまたがる受講者は1万人を優に越えます。

塩谷先生の専門は宗教社会学。「新宗教」の研究に従事され、宗教集団についてのフィールド・ワークに基づく実証的研究という斬新な研究により成果をあげてこられました。大学教員としての先生の仕事もまた時代を先取りするものでした。先生は本学の教養部に着任後、試行錯誤を経て「小紙片によるフィードバック」・「グループ実習」という手法に到達します。前者は、授業のたびに学生達から匿名の感想を受け取り、それらを筆録して教員からのコメントを書き添えた書面を受講生に「フィードバック」する手法。後者は、教室のなかに小集団をつくり、学生達が「みずからそこに参加しつつそこでの自分の体験を吟味する」ようながす手法です。そこに至るまでの塩谷先生のご苦勞と「グループ実習」を通じて学び成長する学生たちの姿は著書『学生と授業をつくる一今、ここでの体験学習一』に生き生きと描かれています。このような先生の手法は近年の大学教育において推進され標準化しつつある「双方向型授業」・「問題解決型学習」の先取りに他なりません。これらの手法を30年以上も前に先取り開発・実践してこられた塩谷先生の慧眼と熱意には驚嘆するばかりです。

塩谷先生は1997年より文学部教育学科倫理学専攻の所属となり、一般教養科目を担当する一方で、倫理学専攻の専門教育と卒業論文指導および専攻の教室運営に寄与されました。毎年4月に先生が倫理学専攻の新入生に向けて必ずお話される短い言葉があります。「新入生の皆さん。4つだけ申し上げます。4年間で卒業しましょう。力をつけて卒業しましょう。授業は全て出席しましょう、無遅刻無欠席が当たり前です。図書館であった友がよき友です。」この言葉は塩谷先生の学生に対する深い愛情と教育者としての厳格さの結晶であると私は思います。私もまたこの言葉を肝に銘じて学生教育に努めてまいります。塩谷先生、どうかお元気で。先生のさらなるご活躍を祈念いたします。これからも倫理学専攻をお見守りくださいますようお願いいたします。

倫理学専攻主任 野津悌